

学びの改革実践校 取組紹介

学びの改革支援課

学びの改革実践校の取組

■ 坂城町立坂城中学校の取組

～1人1台端末を使った4人グループでの学び合いを持続可能なものとして町内全校に拡充～
坂城中学校では、1人1台端末を使った4人グループでの学習を進めている。5月26日には、坂城町の小・中学校4校の教職員が集まる研修会として、坂城中学校で授業公開が行われた。全12学級で授業が公開され、そのすべての授業で1人1台端末を活用している生徒の姿が見られた。

昨年度から坂城町の4つの小中学校のICTアドバイザーを務める信州大学教育学部の佐藤和紀准教授からは、「小・中が連携し、町全体で1人1台端末の活用に取り組まれている成果が出ている。授業の中で、子供たちが互いの情報を共有することが当たり前になってきている」とこれまでの取組への評価があった。

さらに坂城中学校では、講師から「授業の質をさらに高めていくことが大切」というアドバイスを受け、研究主任を中心に、1人1台端末のよりよい活用法を研究している。生徒が互いの意見を交換しながら自分なりの考えを深めていけるようICTを活用して、探究的な学びのさらなる充実を目指して取り組んでいる。



■ 岡谷市立小井川小学校の取組 ～みんなが安心して学ぶことができる授業づくり～

小井川小学校では、1人1人の児童への『手厚い合理的配慮が可能な学校』を目指して学びの改革に取り組んでいる。

(1) 子供の様子を記録する「観察メモ」 学級毎に、特に配慮の必要な児童1～2名について、支援に対する児童の反応とその分析を継続的にメモし、蓄積している。この「観察メモ」を職員間で活用し、情報の共有や指導の振り返りを行っている。



(2) 職員研修で行う「スイッチインタビュー」 あらかじめ互いの授業を見合う教員のペアを決めておき、授業参観した後に、テーマに沿ってインタビューをし合う。この研修は、お互いの授業の様子や児童の学びの姿を共有し、授業観や児童観について語り合うことができ、職員間の同僚性を高めて教員が学び合うきっかけとなっている。

(3) 「多層指導モデルMIM-PM^{*}」の導入 1、2年生では、児童の読み能力に関するアセスメントを活用している。例えば、言葉に合わせて手拍子を打ち、促音や拗音、長音などの発音と表記の違いをとらえていく活動を行うなど、読みに対する子供の実態把握と指導に生かしている。

以上のように小井川小学校では、全職員で「児童を誰もおいてけぼりにしない」というキーワードを念頭に実践を積み重ねている。

※MIM-PM (Multilayer Instruction Model-Progress Monitoring)「多層指導モデル」:学習が進むにつれてつまずきが顕在化する子供を、つまずく前の段階で把握し、指導につなげていくためのアセスメント。早期の読み能力、特に特殊音節を含む語の正確で素早い読みに焦点を当て実施。集団での実施も可能。